

令和6年4月30日

令和6年度は、学校関係者評価委員会を令和6年6月29日、令和7年3月29日に園ホールにて対面で開催いたしました。学校関係者評価委員8名の皆様には「保護者アンケート結果」「教員自己評価結果」など資料を配布の上で発表させていただき、貴重なご意見を頂戴しました。さらに、委員皆様には後日項目ごとに、評価及びご意見やアドバイスを書面にて提出いただきました。その中から抜粋したものを以下に掲載いたします。

なお、項目ごとに頂いた評価はA…3点、B…2点、C…1点 とし、総合点と平均値を記載します。

評価項目	評 価（本園の行った自己評価に対するご意見・ご感想）
重点目標 1 1－① 1－② 評価(8名計) 24 点 平均 【A】	●教員が子どもの経験値や個人差に目を向け、意識して接していた。個別対応をしても難しい子どもにも、丁寧に根気強く繰り返し対応されていた。 ●場にふさわしい行動を取れることは社会の中で生きるために大切なことですが、最近は人との意見のぶつかり合いを避けるために自分を出せない（出さない）子どもが増えているように感じます。周囲の状況を読みつつも、自分を出して人との関わりが十分に出来るような環境が作れると良いと思います。 ●スマイル（園だより）12月号にも紹介されていました「園内はアートで溢れています」を拝読し、園児の興味や関心を大切にし、一人ひとりの満足感や達成感を高める工夫を様々に凝らしていると思いました。また、表現力を高めるために、計画的に年間を通して取り組んでおられる事を高く評価します。 ●・・・保護者の中には、集団での我が子の様子を目にしていないために、他の大多数の子ども達との違いに気付いていない場合や、保護者自身の考える“我が子が集団で浮いていない範囲”もそれぞれ違う場合があるので、園での様子を保護者とも共有していくことも必要だと思う
重点目標 2 2－① 2－② 評価（8名計） 23 点 平均 【A】	●その日の出来事を家庭で、自分の気持ちを交えながら具体的に話す様子は、お友達や先生との関係性がとても良い刺激になっていると感じています。 ●自分の思いを出しても大丈夫と思える安心感を抱ける居場所を作ることは「違い」を受け入れる関係性となり、グローバルな世界に生きている今の子どもに必要である。 ●年長組で“こども会議”の時間を作られたことはとても興味深いです。友達の考えを聞いたり、自分の意見を出したりする中で、自分と人では考えが異なることを理解したり、友達の良さに気付いたりする良い機会だと感じました。 ●運動会や子ども劇場では、友達との関わりを大切に活動が多く組まれ、その活動を通して思いやり、優しさ、助け合いの心をしっかりと育てておられることがよく分かりました。
重点目標 2 2－③ 周年行事 評価（8名計） 24 点 平均 【A】	●保護者アンケートに「70周年では、子どもが毎日のように“幼稚園がお誕生日なんだよ”と嬉しそうに話してくれ、歴史ある幼稚園で過ごせていること、記念すべき年に在園できたこと、とても貴重な経験ができ嬉しい限りです」との記載があった。卒園生による邦楽コンサートでは、園児と共に保護者も一緒に保額に親しむことができ、さらに先輩の活躍を知るという“心に残る周年行事”になったと考えられる。 ●太鼓を作ったりするなど、伝統芸能を身近に感じられる良い機会となりました。 ●子ども達が所属している場所には歴史があり、またそれを支えてきた多くの人たちの存在を知るために教員が分かり易く説明をされていた。子ども達も教員の思いを受け止めて色々な立場の方への感謝の気持ちが持てるようになったと考えられる。
教員自己評価結果 1 保育内容の工夫 2 環境構成の工夫 評価（8名計） 24 点 平均 【A】	●保育内容は素晴らしいと思いますし、保護者もそのように感じていると思います。 基本的な生活習慣については、保護者が時間の余裕のなさから子どもにやってあげてしまうことが多い、子どももやってもらうのが当たり前になってしまう、といった家庭があります。園の取り組みを保護者にも共有し、両輪で進めていくのが良いと思います。 ●体育の教科ではない“運動”は本来楽しいもののはずだ。苦手意識をもっている子どもでもチャレンジする気持ちは育みたい。 子ども一人ひとりを見て、環境構成していることが素晴らしい。生活習慣の個人差にも注目し、成長を促している。 ●子ども達が楽しんで遊びに取り組めるような工夫がされていると思います。肯定的な言葉かけや苦手意識のある子への対応など、難しいことだと思いますが、どうしたら楽しんで取り組めるのか教師が考える課程が大切だと思います。 ●幼稚園は環境を通して行う教育であるため、環境構成を工夫することは大事なことです。子どもが主体的に取り組める環境を作ってきたことがよく分かりました。

教員自己 評価結果 3 幼児への対応 4 保護者への対応	●保護者に子どもの成長を伝える機会をできるだけ多く作り、保護者の気持ちを汲み取りながら子どもにとっての適切な方法等を提示されていた。保護者への声掛けの仕方もよく考慮され、話しやすい雰囲気を作る努力をされていた。 ●園のインスタグラムを通して、園生活がコロナ禍より豊かになっていることを伝えることで、より保護者との信頼関係が深くなっているのではないかと考える。 今年度3学期から、動画の技法を使い“園の紹介”“さよならパーティー”“修了証書授与式”などをUPしていることが印象的となっている。園児の歌声も聴くことができ、子ども達の歌声が響く生活を感じ深く推察することができる。 ●園長を始め教職員の方々の気持ち良い挨拶や心からの笑顔には、いつも心が癒されます。園児や保護者の方々も同じように感じておられると思います。 預かり保育の長時間利用の家族と会話する機会が持てない実態に驚きを覚えました。今後何らかの方策が必要かと思います。 ●教員がチームで子どもの対応をしていると、子どもが助かると思う。厚みのある子ども理解となる。 保護者への対応も一生懸命さがアンケートから伝わってきた。教員からの声掛けに戸惑う保護者の存在はどこも同じだ。また、預かり利用者との対話等工夫が必要である。
評価（8名計） 24 点 平均 【A】	
教員自己 評価結果 5 研修と研究 6 安全管理 7 職場環境 学年チームの 関わり	●文京幼稚園の高い評価の一つに、研修と研究の充実があります。保育内容のPDCAサイクルによる検討や改善を今後も継続して取り組んでいただければと思います。 「変形時間労働制」の導入が、教員の離職への歯止めになることを願っています。 ●今後の取り組むべき課題として、新年度に東京都推奨の「すくわくプログラム」を保育の中に取り入れるとのこと、また今年度に全職員で取り組んだ園内研究、園の特色の一つになっている“栽培活動”が更なる活動の取り組みに活かされていくことを期待している。文京学院設置の幼稚園として、「グローバル」の意識を持つことを少しずつ高められるように。 ●研修・研究は教員の意欲向上に繋がる。 「自分の身は自分で守る」には幼児とは言え、情報は不可欠である。 長く園で働くには、教員が成長を自覚できるしくみも必要なのかもしれない。温かな風通しの良い職場であって欲しい。 ●多様な子ども達に対応しながら、業務内容の見直しは大変かもしれませんが、働き方改革の時代の中で、働く人達が無理なく生き生きと仕事に取り組めるような職場作りをしていってください。
評価（8名計） 20 点 平均 【B】	

総合評価

（8名計）

24 点

平均

【A】

学校関係者評価委員の皆様、貴重なご意見と評価をありがとうございました。
いただきましたご意見は真摯に受け止め、園運営を少しでも改善できるよう努めてまいります。